

1. 研究目的

会社に勤めている中堅世代の人は、パワハラなどの精神的ストレスと同時に、過度な労働時間勤務による肉体的ストレスを抱えていると考えた。肉体的ストレスの原因の一つとして、長時間に渡るパソコン作業がある。パソコンモニターを注視し、長時間同じ姿勢で座ることで、肩こりや腰痛などを起こしている。

そこで本研究では作業時に自由に姿勢を変えられるオフィスチェアを提案する。

2. 調査と分析

1回目の調査では30代の男性に対して、「リラックスしているときはどんな時か」というアンケート調査を行った。その結果、「家族といる時」や、「自分の時間を使っているとき」という回答が多かった。その結果から、オフィス内でリラックスはできないのではないかと分析を行った。

さらに、現代社会の現状やオフィス内で働く30代男性が抱えているストレスについて調査を深めていき、IT 社会という現状と長時間労働という問題が「肩こり」「腰痛」の原因となっていることが分かった。そこで、今度は椅子の座り方に関するアンケート調査を実施した。その結果、「あぐらをかく」「正座をする」などといった回答があった。そこから、自分の好きな座り方を自由に見つけられる椅子を研究し進めていった。

3. コンセプトの立案

「姿勢を自由に換えられる椅子」

- ・座面の大きさ検討
- ・背もたれのあり方の検討
- ・仕事時と休憩時の座り方の検討

4. デザイン展開

コンセプトにあるポイントを踏まえて、モデル制作を行い、形や耐久性、制作工程を確認しながらデザイン展開を行った。

1次モデルは2分の1スケールで制作し、全体の構造について検討した。足の耐久性に関して問題はなかったのだが、安定感や安心感について再度検討する必要が生じた。また、座面と背もたれに關しての接続の方法や工程を確認した。肘置きを設け、寛げるように考えたが、自由な姿勢で座ることができなくなった。このことから、肘置きを作らず自

由に体を崩して座れるようにした。

背もたれを2つ設け、高さを工夫することで仕事時と休憩時(ON と OFF)に座る向きを変えられるようにした。また座面の奥行にも変化を持たせ、座り方を誘導することとした。これにより集中してオフィスワークに取り組み、また休憩もできるようになると考えた。2次モデルは現尺で制作し、1次モデルではできなかった座面のサイズや耐久性などについて検証を行った。第3者に実際に座ってもらい、インタビューをしながら問題点を探っていった。その結果、2つの背もたれの高さを変えた方がよいという意見が多かった。2つの背もたれの使用用途も分けて使えるようにと片方の背もたれには肘かけとして使える構造にした。

脚の構造についてはオフィスワークを考え、従来通りのキャスター構造を採用した。

5. 完成図



6. 結論

実際に30代男性に座ってもらったところ「ゆったり座れてよい」、「体勢が換えられるので、長時間座っても疲れなそう」という意見をいただいた。一方で「大きすぎるので邪魔になりそう」という意見もあった。今回は実際のオフィスチェアと机との距離感やサイズなど含めての検討はできなかった。オフィスデスクとチェアの関係にもっと目を向けてデザイン展開を進めていくことで、オフィスに適した形や、サイズを提案できると考える。

文献

[1] <http://www.isudoraku.com/blog/list/21>

オカムラの椅子専門店 椅子道楽